

令和 6 年 2 月 5 日
 経 済 産 業 部
 障 害 福 祉 部

農福連携事業の実施状況について

1 主旨

令和 3 年度に開始した農福連携事業については、令和 4 年度に粕谷 2 丁目の農地を事業拠点として取得し、取り組みを進めている。このことについて、これまでの実施状況を報告する。

2 実施内容

(1) 障害者就労を伴う農園の維持管理 【別紙】写真

農園の維持管理を行っている電通グループ農福連携コンソーシアムが、農園維持管理業務に従事するスタッフとして、区内在住の障害者を 8 名雇用しているほか、障害者施設に対して、草むしり等の作業を発注した。

- ・業務に従事している障害者：8 名（令和 5 年 12 月現在）
- ・障害者施設への作業発注：2 回、6 施設受注、障害者 15 名参加（令和 4 年度実績）

(2) 農作業体験会等の実施 【別紙】写真

区内障害者施設を対象にして、農作業に親しむこと及び農業での就労を考えることを目的とした体験会を月 1 回程度実施している。また、近隣小・中学校の特別支援学級向けの体験会も学校と調整しながら実施している。

・障害者施設向け体験会

令和 4 年度：19 回実施、参加した障害者 延べ 167 人

令和 5 年度（～12 月）：11 回実施、参加した障害者 延べ 97 人

・特別支援学級向け体験会

令和 4 年度：1 回実施、参加した生徒 延べ 28 人

令和 5 年度（～12 月）：5 回実施、参加した生徒 延べ 159 人

(3) 区内障害者施設の工賃向上の取組み 【別紙】写真

区内障害者施設と連携して、本農園で収穫した農作物を活用した加工品の開発を行い、区内障害者施設に加工品作製の発注を行った。

- ・商品化したもの：切干大根、ドライタマネギ、ジャム（ニンジン、さつまいも）等

(4) 地域との連携を進める取組み

オープンファームの開催 【別紙】写真

地域住民や関係団体等を主な対象として、農福連携事業の P R と障害理解の促進を目的とした農園見学・体験イベントを開催した。

開催日時：令和 5 年 1 0 月 1 4 日（土）午前 1 0 時～午後 3 時

実施企画：農福連携事業の紹介展示、農園案内ツアーと収穫体験、マルシェ、土遊びスペース設置

来場者数：2 4 2 人

農作物・加工品の販売【別紙】写真

本農園で収穫した農作物やその農作物を使って障害者施設で作製した加工品を地域

のマーケット等で販売している。

販売場所：JA 東京中央ファーマーズマーケット、コミュニティカフェななつこの、居場所カフェこもりな、東京農大グリーンアカデミーマルシェ 等
地域事業者による農作物の活用促進 【別紙】写真

本農園で収穫した農作物を地域の飲食店等の事業者を活用していただいている。

・活用事例：惣菜パン、クラフトビール 等

(5) 農福連携事業のPRの取組み【別紙】写真

世田谷区の農福連携事業の認知度向上のため、区内外の農業イベント等におけるPRを実施している。

イベント：花展覧会・農業祭、全国都市農業フェスティバル（練馬区）等

実施内容：

- ・PR チラシの作成・配布
- ・農業イベント（世田谷区農業祭、練馬区）における加工品販売
- ・昭和信金主催「三ツ星バザール」にてブースを出店。来賓用お土産を受注。

(6) 農園名称とロゴマークの作成

本農園が、区の農福連携事業の拠点地であることをPRするとともに、区民及び農園を利用する人たちに親しみをもってもらえるよう、区内障害者施設と意見交換及び投票を行い、名称案およびロゴマーク案を作成した。

名称案：「世田谷農福ファーム せたそら」

ロゴマーク案：右図参照



(7) 農家向けアンケートの実施

区内農家を対象とし、当該事業の認知度向上や今後の展開に向けた参考とするためアンケートを実施した。

回答者：256名

主な回答結果（認知度）

内容を含め概ね理解している	45人（約17.6%）
農福という言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	50人（約19.5%）
言葉自体聞いたことがない	161人（約62.9%）

農福連携の取組みをすでに実施している方や、興味を持っている方がいることも確認できた。

(8) 施設整備について

令和5年10月より、農園利用者の増加や様々な障害への配慮に対応するためのユニバーサルデザイントイレ等、農福連携拠点として運営する上で必要な施設の整備を行っている。工期は令和6年3月末を予定している。

3 今後の取り組み

(1) 現在の取り組みの安定化

現在、障害者に対して安全で適切な就労環境や農作業体験の機会を提供するとともに、障害者施設や飲食店等様々な事業者との繋がりを構築することにより、農作物や加工品を介して農福連携事業の取組みが少しずつ地域へ広がりつつある。引き続き、現在の取り組みを進め、より安定的に当該事業を運営していく。

(2) 区民への周知

オープンファームは地域の方々が多く来園され、農福連携事業の認知度向上・理解促進に有効であった。今後、さらなる認知度向上、理解促進のため、今回作成した農園名やロゴマークを活用した農園看板の設置、専用ホームページの開設を進めていくとともに、年2回程度、地域の方々に向けたイベントを行なっていく。

(3) 障害者施設及び農家へのアプローチ

障害者施設等関係団体と連携をさらに進め、本事業を通して障害者の参加や工賃アップの取組みなど、農地や農作物を活用した様々な展開が図れるよう検討していく。また、農福連携の取組みを展開していく上で、区内農家の理解と協力が必要不可欠であり、関心のある方へヒアリングを行うなどして、今後の展開に向け検討を進めるとともに、認知度向上に向けたPRを実施する。

4 今後のスケジュール(予定)

令和6年2月	専用ホームページの開設
4月	農園名看板の設置
7月頃	オープンファームの開催

【別紙】

写真



圃場全貌



セルトレイに播種

写真



校外学習



校外学習



体験会



体験会



体験会



体験会

写真



にんじんジャム&ドライたまねぎ



さつまいもジャム

写真



オープンファーム入口



オープンファーム圃場ツアー



オープンファーム九条ねぎ収穫



オープンファームマルシェ

写真



JA ファーマーズマーケット店頭



ななつのご店頭

写真



ふたご麦粕



梅ビール



オニオンブラッサム



さつまいものデザート



ニンジンソテー



カレーライス

写真



三ツ星バザール